

## 序 文

(独)水産総合研究センター中央水産研究所は、調査研究を通して水産物の安定供給の確保や水産業の健全な発展へ貢献することを目指している「水産総合研究センター」傘下の研究所の一つです。

研究所の中でも他の研究所の共通基盤的研究を担う組織として、経営経済、水産資源管理、海洋・生態系、水産物応用開発(利用加工)、水産遺伝子解析の分野の研究を推進しています。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災からの復興や再生のための研究開発にも、他の水産研究所、県の研究機関、大学や漁業者の皆様と連携して取り組んでいます。このような取り組みで得た成果は、通常は、論文、報告書あるいは学会やシンポジウムなどを通して公表しますが、この公表ルートでは成果の内容がなかなか一般の方々の目や耳に届きません。そこで、専門家でない方々にも我々の研究成果を知っていただくことを目的として、成果を解りやすく解説したのがこの「研究のうごき」です。平成15年度に発刊しましたので、今号は第12号になります。

この「研究のうごき」は当所の主要な研究課題について、研究開発の背景と目的、得られた成果及びその波及効果をそれぞれ1ページにとりまとめ、冊子として編集したものです。研究論文とは異なり、すぐに理解していただくことを目指して作成した成果集です。

水産総合研究センターは、運営交付金を始めとする公的な資金に大きく依存していますので、納税者である一般の方々に研究成果を理解していただき、ご意見をいただくことはとても重要なことだと考えています。したがって、「研究のうごき」を読まれて、何か感想や疑問を持たれた方には、その内容を是非所員にお知らせいただきたいと思います。

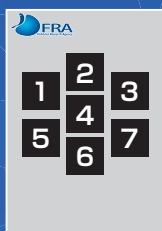
また、もし、本冊子に興味を持たれた方々がおられたら、ぜひ、当所のホームページ (<http://nrifs.fra.affrc.go.jp/>) に掲載されているバックナンバーもご一読ください。

さらに、研究所では一般公開(平成26年は10月19日(日))やサイエンスステージ(平成26年は9月27日に横浜八景島で)などのイベントも毎年開催しますので、このような場にもお越しくださり、所員と直接意見交換していただけると大変ありがたく思います。



平成26年9月

独立行政法人 水産総合研究センター  
中央水産研究所 所長 時村 宗春



表紙写真(提供)：1. 有明海ノリ養殖場(小林正裕)；2. インドネシアのエビ養殖場(廣田将仁)；3. スミズメカキ(關野正志)；4. 石西礁湖サンゴ群落(長井敏)；5. マサバ(上村泰洋)；6. サバの水揚げ(川端 淳)；7. カツオ(国際水研 佐藤圭介：国際資源評価等推進委託事業による)